

さわ マサノ沢遺跡(本発掘調査A)

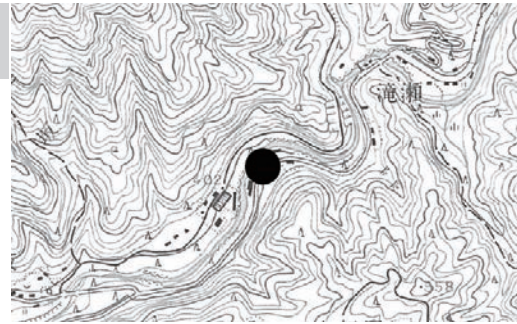
所在地 北設楽郡設楽町小松字マサノサワ
(北緯35度07分04秒 東経137度34分35秒)

調査理由 設楽ダム

調査期間 令和2年6月

調査面積 100㎡

担当者 鈴木正貴・河嶋優輝・宮腰健司



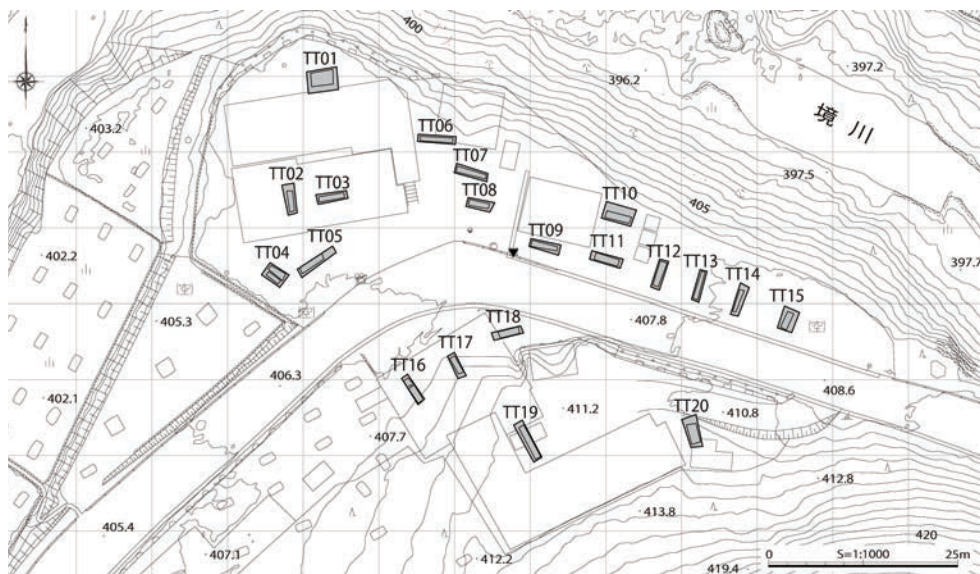
調査地点(1/2.5万「田口」)

調査の経過 調査は、国土交通省中部地方整備局による設楽ダム工事関連事業に伴う事前調査として、愛知県県民文化局より委託を受け、令和2年6月に実施した。調査面積は100㎡であり、県道北側に15箇所、南側に5箇所計20箇所のトレンチを設定した。今年度調査対象地の南西では平成28年度に本発掘調査A、平成29年度に本発掘調査Bを実施しており、土器棺墓など縄文時代後期～弥生時代前期の遺構が展開することが確認されている。

立地と環境 遺跡は、設楽町小松地区の境川左岸(東岸)の段丘面に位置する。調査対象地の標高は約407～411m、大部分は過去に工場地として利用されており、コンクリート製の構造物が多数遺存する。県道を挟んで境川側となる北側は盛土による平場となっており、南側は狭い平場とコンクリート製の擁壁によって土留めされた高台とに区分される。

調査の概要 地表面下に表土と一体化した盛土層が存在し、黒～暗褐色粘土質シルトの遺物包含層を経て、にぶい黄褐色～明褐色中粒砂あるいはシルトの基盤層に至るのが基本的な様相である。遺物包含層が確認されたのはTT01～TT06、TT08、TT10～TT12、TT20で、包含層上面の標高は約405.3m～410.0m、全体として南東から北西に向かって下る様子が見て取れる。ただし、包含層上部は多少削平されているものと思われる。

出土遺物は縄文土器、条痕文土器、摺石・敲石類、近世陶器で、近世陶器以外は遺物包含層から出土した。遺物はTT05を中心に県道北側のトレンチから出土しているが、本年度調査全体での点数は44点と少なく土器も細片化したものが多い。検出された遺構も土坑のみであり、遺物は二次堆積である可能性も考えられる。(河嶋優輝)



トレンチ配置図(S=1/1000)